研究部会報告

都市計画と交通

第22回　5月30日(水)　"地下街とその防災"　講師：目良純氏（鉄道会館）出席者13人.

"地下街"とは何か，その関連法規等の話に始まり，日本での発達の歴史と現状を概観したあと，地下街の防災対策について，同氏が設計された最近の具体例で説明があった．地下街の危険感や問題点などが議論されたが，とくに地震のとき，地下街は地上の建物より安全といえるのに，マスコミが地下街は非常に危険だという印象を広めたこと（これによって安全上のメリットを失うおそれがある.）が問題だという指摘があった.（なお，地下街は日本に特有ではない.）

第23回　6月27日(水)"空気浮上式新交通システムＡＳＶ"講師：柴田啓次郎氏（東急車両）出席者13人.

数年前，アメリカそれからフランスで，低圧空気により浮上し（エアベアリング），リニアモータによって推進する新しい交通システムが発表されたが，わが国でも最近T社等のグループが初めて開発し，実用化のメドがついたとのことである．特長は，省エネ，低騒音で，かつ乗心地よく，保守が楽なうえに車両価格など安くできるとされており，従来の新交通システムの欠点を解決するものとして期待される.

日本における社会システム分析

第1回　54年6月16日(土)　14:00～17:00
統計数理研究所において開催，出席者18名.
議題：1980年代の行政――ワルドー教授の報告をもとに将来を展望する．地方自治研究資料センター所長，加藤富子氏
（内容）現在先進主要国において行政の見直しが叫ばれており，80年代に向け大きく転換しようとしている．行政において出現しつつある問題，ジレンマ，苦境などを分析して，将来の動向を検討するとともに，日本の現状を社会システムの見地から実証分析してあるべき方向を探究した.

第2回　54年7月14日(土)　14:00～17:00，統計数理研究所において開催，出席者　16名.
議題：日本的合理主義における政策科学，防衛研修所：福島康人氏
（内容）政策形成過程に科学的アプローチを適用しようとすること自体は，きわめて重要であり，当然そうあるべきであるが，日本的合理主義のもとではその問題点は果してどこにあるのか，またそれを解決するにはどのような手段としくみが必要かなどについて研究した．きわめて有効に機能した明治の伊藤博文システムと，まったく逆な大正のシステムは，実証研究の価値のあることが確認された.

実施理論

5月例会　5月19日(土)　15:00～17:00，東京工業大学
出席者19名.

Schultz & Slevin の第2章，Theories of Implementation (C.W. Churchman)，第3章，A Program of Research on Implementation (R. L. Schultz & D. P. Slevin) について，それぞれ太田・青木委員の担当で，講読会を行なった．第2章は，Churchman 特有の実施理論に関する哲学的論文であり，第3章は，実施理論研究のフレームワークとして，行動的モデル構築を提唱した論文である．なお，根本委員より，Churchman の文献に関する紹介があった.

7月例会　7月7日(土)　15:00～17:00，東京工業大学
出席者16名.

Schultz & Slevin (1975) の第5章，Structural and Behavioral Correlates of Implementation in U.S. Business Organizations について，安藤(昌)委員と加藤(晴)委員との担当で講読会を行なった.

本章では，米国108社の実態調査にもとづいて，ＯＲ／ＭＳの実施率や成功が，ＯＲ／ＭＳの管理者やプロジェクトに関する行動変数だけではなく，組織特性などの構造的変数によっても説明されること，さらにＯＲ／ＭＳ活動の組織内発展段階によって説明変数の説明力に違いのあることが論じられている.

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．